

日刊旅行通信

発行所 航空新聞社：日刊旅行通信編集部編
〒107-0052 東京都港区赤坂4-8-6 赤坂余湖ビル3階
TEL(03)3796-6646 FAX(03)3796-6645
<http://wingnews.net> <mailto:mail@wingnews.net>
購読料 半年33,600円 年間63,000円(消費税含む)

【トップニュース】

★1-11月の訪韓客300万人、11月も中韓が牽引 台湾も年間130万人超え、東南アジアが回復

アジア／太平洋地域の2011年11月の日本人旅行者数が出揃った。11月の韓国への訪問者数は前年同月比20.7%増の333万1700人と単月で今年最高の2割を超える伸びを示した。1-11月の累計で韓国への訪問者数は7%増の299万人と300万近くまで伸び、11年は09年の305万人を大幅に上回る過去最高を記録することが確実となった。

日本から韓国への訪問者数は、韓流ブームの再来に加えて円高の影響を経て、航空会社の供給はほぼ満席状態が続いている。ソウルのホテルも逼迫している。

法務省によると、2011年の日本人出国者数は3月の東日本大震災の影響を受けたにも関わらず1699万3000人と1700万人まであと一歩まで迫ったが、これは後半、とくに夏場以降の伸びが大きかったため、とくに訪韓需要が出国者数の底上げに貢献した。

一方、尖閣諸島問題が年を越して年初はマイナスからスタートした中国への訪問者数は、11月は前年同月比16.8%増の32万9600人と12年で最高の伸びを示した。1-11月累計は3.2%減の335万4400人まで回復、累計で350万人を超えると見られる。

2011年は日本と台湾の交流が深まった年として長く記憶に残りそうだ。11月の日本人訪問者数は18.8%増の13万1900人。1-11月累計は17.6%増の117万700人。12月を残して07年の年間107万人を上回る過去最高を記録、年間で130万人を超えることが確実視されている。

一方で、震災の影響で台湾からの訪日客はいち早く回復し、最終的には年間で2割減の99万4000人とどまった。今年はインバウンドの回復で、双方向で250万人の交流人口拡大の可能性も出てきた。

11月の香港への訪問者数は5.9%増の11万9700人、マカオも10.6%増の3万9700人で、両地域とも2ヵ月連続のプラスと同様の傾向を示しており、最終的に2011年は9月以降盛り返して小幅なマイナスに留めた。

11月の東南アジアへの日本人訪問者数は、シンガポールが18.8%増の6万1200人。1-11月累計は23.7%増の59万3700人。12月もプラスが確実で年間を通して好調に推移、2年連続のプラスは確実。ショッピングに偏重していたブランドイメージが、新たな施設の展開で生まれ変わったことがプラスに作用した。

タイへの日本人訪問者数は、11月は31.3%減の5万8000人。1-11月は19.2%増の105万6700人。洪水の影響で11月以降のマイナスは避けられないが、年間トータルは5年ぶりにプラスに転換、12年に再度年間120万人をめざす。

2011年に日本人出国者数が1700万人に迫った要因に、アジアへの訪問者が回復したことが大きい。フィリピンは11月が5.4%増の3万2000人、1-11月が4.6%増の34万3400人、ベト

ナムは11月が12.1%増の4万8300人、1-11月が7.4%増の42万7900人と順調に伸びている。

太平洋方面のデスティネーションでは、ハワイは11月が4.7%増の9万6600人を記録した。9月以降はプラスに転化しており、福岡ーホノルル線の供給増もあり、ハワイは今年注目されるデスティネーションとなる。

グアムの11月日本人訪問者数は0.1%減の7万700人とほぼ前年並みだった。1-11月累計は8.9%減の74万9000人。北マリアナ(サイパン)は11月が16.8%減の9500人、1-11月が24%減の12万9900人だった。供給側の事情とはいえ、北マリアナは11年トータルで15万人を割り、最盛期の40万人近かった頃と比べると激減している。

オーストラリアへの11月日本人訪問者数は11.7%減の3万900人、1-11月は17.3%減の30万1800人。前年は6年ぶりにプラスだったが、1年でマイナスに戻る。このまま推移すれば、年間33万人台となりそうだ。

ニュージーランドへの日本人訪問者数は11月が30.3%減の5840人、1-11月が24.1%減の6万1100人。11年は年間7万人弱と見られる。

★航空局、日英航空交渉で羽田昼間長距離線で合意 最速2014年夏期から1日2便ずつ運航可能に

航空局は1月24日、17～20日にロンドンで行われた日英航空交渉において、英国が羽田空港で初の昼間長距離国際線の発着枠が決定し、オープンスカイ13ヵ国目となる欧州初の合意国となったことを発表した。前田武志国交相は当日の閣議後会見で、成田空港の国際線ハブ機能のさらなる強化と、羽田の国際線の推進により「首都圏全体の機能強化を図っていく」とコメントした。

この羽田空港における合意は、日英両方の航空会社が1日2便ずつ運航可能とする内容で、羽田空港国際線の昼間発着枠が現状の3万回から、最速2014年度中に長距離国際線を含め合計6万回とする最初の枠組み。今後は長距離路線も含めた昼間拡大分の発着枠について、航空交渉が進められることになる。また深夜早朝時間帯については、国際線発着枠3万回の範囲内で、成田国際空港が2013年夏期に予定している27万回化と同時に、発着枠を限定しないこととした。

成田は27万回時点で自由化、関空・中部は以遠権も

また首都圏空港を含めたオープンスカイについては、成田空港27万回化の時点で日英間輸送のオープンスカイを実現し、関西国際空港および中部国際空港についても2国間輸送の自由化に加えて、相手国で旅客・貨物を搭載し第3国へ輸送する、以遠地点への輸送について直ちに実現可能とした。

日英間の運航状況としては、日本側では日本航空が成田ーロンドン線を週7便、ブリティッシュ・エアウェイズがロンドンー成田線を週7便、ロンドンー羽田線を週5便(12月26日～1月

27日週3便）、全日空とヴァージン・アトランティック航空はコードシェアにより成田ーロンドン線を週7便で運航。旅客数の実績では2010年が65.3万人、2009年が73.8万人、2008年が90.8万人。

現在羽田空港では、発着枠が全体で昼35万回で、うち国際線が3万回。これが当初は最速で2013年度中に昼40.7万回、国際線6万回を目指してきたが、国際線ターミナルの拡張工事や管制方式の慣熟などによって、最終的な40.7万回化については最速2014年度夏期を目指しているところ。

【旅行関連】

★東京都、観光産業振興へ観光予算26.5%増に被災地応援ツアー1億1200万円など新規事業も

東京都の2012年度予算（案）は産業労働局が観光産業の振興予算を前年度対比7億6400万円増（約26.5%増）の36億5200万円大幅アップで計上した。そのうち新規事業は、コンベンション誘致活動の展開、舟運を機軸とした観光振興、産業を活かした観光ルート整備支援、さらには被災地応援ツアーも実施する。

被災地応援ツアーは、東京都の補正予算でも既に実施された実績があるもの。旅行会社が企画する被災地応援ツアー（福島県への宿泊及び日帰り旅行）の割引を行うもので、宿泊旅行の場合は割引額が3000円で東京都は2万泊分の予算を確保。日帰り旅行でも、割引額1500円、1万5000回分の規模の予算を確保した。その予算は1億1200万円。

観光産業振興予算は予算が増額されている事業が目立つ。東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の発生で、訪日需要が大きく減少。その後、顕著に回復はしてきてはいるものの、まだまだ諸外国の不安を払拭しきれていない面もあることから、日本及び東京の復興と安心をアピールする事業の予算などが増額される傾向にある。

東京の魅力を世界に発信する事業は前年度比5億3800万円増えて11億9000万円に急増。なかでも、コンベンション等を通じた魅力発信事業は4億7800万円増の5億1000万円を計上。観光プロモーション等の積極展開で、アジアからの旅行者誘致事業等は4900万円増えて3億4100万円となった。

また、観光資源の開発は5400万円増の13億9800万円を予算化。そのうち観光まちづくり（建設局に計上された事業を含む）は4200万円増えて12億4000万円となった。

さらに、東京ひとり歩きサイン計画、観光案内所の運営、ウェルカムボードの設置といった受入体制整備事業は6900万円増の7億8200万円が計上された。

港湾局、東京港等への客船誘致に800万円

さらに港湾局関連で、東京港、伊豆・小笠原諸島において、国際観光振興に寄与すべく、客船誘致の取り組みを推進していく方針で、港湾局は新規に800万円の予算を計上した。

京急蒲田改善49億円、羽田空港アクセス改善

また、都市整備局関連では、京急蒲田駅総合改善事業費補助を来年度も計上。11億円増加して49億円が計上された。この事業では、羽田空港へのアクセス改善を目指しており、付近の立体交差事業に併せて、京急蒲田駅を2層化することで、京急

本線と空港線の平面交差を解消し、空港線の輸送力増強を図るというもの。

アジア中小型ジェット機開発、継続で推進

来年度予算でも、知事本においてはアジア大都市ネットワーク21（ANMC21）の推進事業が実施されることになっており、来年度予算は今年度比べて2億5500万円増えて11億5300万円となった。このなかには、東京都が主導している、いわゆるアジアで共同で中小型ジェット旅客機の開発を目指す、中小型ジェット旅客機の開発促進も含まれている。

既報の通り、アジアヘッドクォーター特区に認定されたことから、知事本局において、このアジアヘッドクォーター特区事業を推進していく。同事業の来年度予算は1億円。域内将来ビジョンの作成や都内外資系企業動向調査などを実施していく。

★訪日関連メディアが結集しコンソーシアム設立 外国人向け情報の品質向上へ、5社でスタート

訪日外国人向け情報誌の品質や地位向上をめざし、媒体の発行会社を中心となって「日本インバウンド・メディア・コンソーシアム」（JIMC）を設立した。任意団体としてインバウンドに関するセミナー開催やマーケティングリサーチを手がけていくほか、会員向けの勉強会等を開催し、情報媒体の品質向上を促していく。メディア間で連携することで発言力を高め、健全なインバウンド市場の拡大につなげる。

去る1月23日に発足し、団体の中核としてファイネックス、ダイヤモンド・ビッグ社、インフィニティ・コミュニケーションズ、角川マガジズ、チナ・インベスト・マネジメントの5社が加盟した。理事長は桑原信彦氏（ファイネックス代表取締役）、副理事長は弓削貴久氏（ダイヤモンド・ビッグ社 GOOD LUCK TRIP編集室プロジェクト統括マネージャー）が就任した。事務局はインフィニティ・コミュニケーションズ内に置く。

発足当日に記者会見した桑原信彦理事長は、現状の外国人向けメディアについて、「参入障壁が低いこともあり、情報の信頼性に疑問符のつく媒体が多い」ことを指摘。「国を挙げてインバウンド拡大に取り組む中、正確で質の高い情報発信が求められている」ことが、JIMC設立の背景にあることを説明した。

具体的な活動内容は今後決めるが、まずは会員が順守すべき倫理綱領を作成するほか、加盟には一定のハードルを設け、メディアの品質向上につなげていく。JIMC加盟をいわば“お墨付き”として定着させ、悪質な情報を発信する媒体との差別化も図る。

また、訪日外国人の受入環境整備にも取り組み、情報力を活



JIMC理事長の桑原信彦氏（左）と役員一同

かしたセミナーやシンポジウムの開催、さらに各種調査・データの収集などもおこなう。

会員団体の拡大もめざし、媒体発行会社だけでなく、旅行会社などのインバウンド関連企業や、広告代理店等の加盟を呼びかけていく。公式ホームページも開設済みで、サイトを通じて各種情報発信を行っていく。

なお、年会費は正会員が4万8000円、賛助会員が3万6000円。事業年度は1月1日から1年間で、途中入会の場合は月割りにする。

JIMC事務局の連絡先は以下の通り。▼住所=〒107-0062 東京都港区南青山3-5-2 南青山第一葎澤ビル3階(インフィニティ・コミュニケーションズ内) ▼電話=03-6438-0737 ▼ホームページURL=http://www.jimc.gr.jp/

★ロシア語旅行ガイド、アフィーシャ日本版創刊

日本政府観光局(JNTO)が取材協力したロシアで最も人気がある旅行ガイドブックシリーズ「アフィーシャ(AFISHA)」の日本語版が発行される。「アフィーシャ」はロシア全土で広く愛読されているガイドブック。ロシアで日本に関する旅行ガイドブックが販売されるのは今回が初めて。国別ガイドブックとしてはイタリア、英国に次いで日本は3カ国目。

アフィーシャでは、編集者自身はその国へ足を運び、自ら体験した食、伝統文化、人との交流などをロシア人ならではの視点で紹介する内容。

日本の歴史、文化はもとより、アニメやトイレのウォッシュレット等、日本の現代文化やライフスタイルに至るまで幅広く紹介されているため、旅行の計画段階や旅行中に便利だけでなく、読みものとしても楽しむことが出来るのが特徴です。

JNTOでは、震災により打撃を受けたロシア市場も徐々に回復基調にあり、今回のアフィーシャ日本版の発行が訪日旅行需要回復の契機になればと期待している。

★トップツアー、初音ミク冬ver購入券付きツアー発売 JR北海道、新千歳一小樽間2日間乗り放題券も

トップツアーは、クリプトン・フューチャー・メディアと共同で、「雪ミクオフィシャルツアー」を発売した。札幌雪祭りの観光と、人気バーチャルアイドルの「初音ミク」の冬季限定フィギュア「ねんどろいど雪ミク ふわふわコートver」の購入券をはじめ、様々な雪ミクグッズをセットにした商品になる。

商品にはこのほか、JR北海道の駅ホームへの雪ミク仕様の入場券の購入券や、郵便局の雪ミクオリジナルフレーム切手購入券、ツアー参加者限定雪ミククリアファイル、雪ミクラバーストラップ2012年バージョン、およびJR北海道の新千歳空港駅一小樽駅までの2日間(2月11~12日)乗り放題パス「雪ミク☆フリーパス」をセットしている。各種購入券は購入を確約する券であり、購入費用については別途必要になる。

プランは札幌市内の19軒のホテルから宿泊を選択するホテルプランと、羽田空港発着航空機付ホテルプランの2種類を設定。ホテルプランは2月10・11日のいずれか1泊する1泊2日プランと2月10日から2連泊する2泊3日のコースを設定、航空機付きプランは2月10日出発の2泊3日コースになる。旅行代金は、ホテルプランが1万9000円~1万9800円で、航空機付プランが6万4100円~8万1900円となる。

雪ミクは“真っ白い初音ミクの雪像”をモチーフにしたデザインで、冬の北海道を応援するキャラクターと位置付けられている。トップツアーによると、バーチャルアイドルとして人気の初音ミクの特別バージョンとだけあって、マニアの注目も高いという。

冬期期間中、札幌市内では雪ミクのラッピング市電が走るほか、雪祭り会場では雪像や氷像をはじめとした様々な場所で展示でグッズ販売が予定されている。

★KNT、ツイッターで「ねづっち」に挑戦キャンペーン なぞかけツイート募集、最優秀賞には旅行券1万円分

近畿日本ツーリスト(KNT)は2月29日まで、伊豆・箱根・駿河路・浜名湖エリアを中心としたエリアキャンペーンの一環として、首都圏近郊で一足早く春が感じられる同エリアにちなみ、初春の旅をテーマにした「なぞかけツイート」コンテストをWebキャンペーンページで実施する。

審査にはキレのある即興なぞかけで人気のタレント、Wコロンのねづっちさんが審査委員長として携わる。審査後、最優秀賞として1名に同社の旅行券1万円分を、優秀賞として2名に旅行券5000円分を進呈する。

キャンペーンへは、ツイッターで同社公式アカウントをフォロー後、ハッシュタグ「#KNTでねづっちに挑戦」を明記の上なぞかけをツイートすることで応募する。なぞかけは、ねづっちさんのお題に解答する初級編と、春の旅に関連するキーワードでオリジナルのなぞかけを作成する上級編があり、いずれのツイートでも応募を可能としている。

優秀作品および最優秀作品は、キャンペーンページにて3月上旬に発表する予定という。

※伊豆・箱根・駿河路・浜名湖Webキャンペーンページ
http://yado.knt.co.jp/sp/izu_hakone_cp/

【航空関連】

★SKY、関西-新千歳/那覇線を780円~で設定 新運賃「関空割」・「宮古割」も登場

スカイマークは3月25日~3月31日までの運航ダイヤを発表した。既報の通り、スカイマークは3月25日から、関西-新千歳(1日2往復4便)、関西-那覇(1日1往復2便)、そして羽田-関西線(1日1往復2便)を開通。関空-新千歳/那覇線では、最安値780円の「WEBバーゲン」運賃を設定する。3月1日には、日本初の本格的な格安航空(LCC)の看板を下げて運航をスタートするピーチ・アビエーションが、関西国際空港を拠点に福岡、新千歳線に就航することになっており、日本における低運賃戦略のパイオニアであるスカイマークと、日本初のLCCピーチ・アビエーションによる勝負が繰り広げられることになりそうだ。

スカイマークは、かつて平成17年3月から関空-羽田線を運航。しかしながら、利用率が伸び悩んだこともあって撤退し、関西圏では神戸空港にリソースを集中させて拠点化を図っていた。

低運賃戦略を柱に、着々と利用率を伸ばして力を付けたスカイマークは、フリートも大きく拡大してきており、今回は関空-羽田線の復活に加え、関空-新千歳、関空-那覇をそれぞれ新規に開設して、関空を使った関西圏のネットワークを拡充す

る。

前述の通り、関西-新千歳/那覇線で最安値780円の新運賃が設定されたが、スカイマークはさらに新運賃「関空割」と「宮古割」を打ち出した。この運賃は、空席状況に応じて運賃額が変動する空席連動型の運賃。「関空割」は、関西-新千歳/那覇線が対象で、3800円~1万8800円。一方、那覇-宮古線を対象とする「宮古割」は2800円~8800円。

なお、成田-那覇線についても3月25日以降、1往復増便して1日3往復6便体制で運航する。

(関西-新千歳)

▼903便=関西09時00分→新千歳10時55分

▼909便=関西17時55分→新千歳19時50分

▼902便=新千歳09時40分→関西11時50分

▼908便=新千歳20時25分→関西22時35分

(関西-那覇)

▼929便=関西12時25分→那覇14時25分

▼930便=那覇15時30分→関西17時20分

(羽田-関西)

▼059便=羽田20時15分→関西21時30分

▼050便=関西07時15分→羽田08時25分

★ルフトハンザグループ、2011年度旅客数過去最多 1億630万人を記録、前年比7.5%の増加に

ルフトハンザグループは、2011年度（1~12月）の総旅客数が過去最多で前年比7.5%増の1億633万人を記録したと発表した。当該年度のルフトハンザグループは、座席供給量を前年比で9.8%増加させ、これにともない座席利用率は2ポイント減の77.2%になったが、有償旅客キロは7%増加するなど好調だった。

グループの2012年度の事業計画については、欧州危機などにより2011年下期から続いている需要減少を考慮し、旅客部門においては有効座席キロを3%増程度の成長に留める予定。2011年度の決算結果は、3月に発表するとしている。

なお、当該年度のルフトハンザドイツ航空単体の総旅客数は11.1%増の6545万人。座席数は11.8%増、利用率は2.2ポイント減の77.2%となったが、売上高は8.8%増を達成している。

航空会社ごとの総旅客数は、スイス インターナショナル エアラインズ (SWISS) は1640万人、オーストリア航空は1130万人、bmiは570万人、ジャーマンウィングスは750万人となった。SWISSについても既報の通り、2011年度は過去最高の旅客数となった。

★中国国際航空12月実績、総旅客数1.8%増 国際線は2.2%増、ともに穏やかな成長

中国国際航空によると、12月の全体の運航実績は総旅客数が前年同月比1.8%増、有効座席キロ (ASK) は4.9%増、有償旅客キロ (RPK) は3.8%増となったものの、ロードファクターは0.8%減の76.9%だった。

国際線の総旅客数は2.2%増、ASKは3.5%増、RPKは3.1%増、ロードファクターは0.3%減の73.5%。

中国国内線の総旅客数は1.4%増、ASKは5.6%増、RPKは3.8%増、ロードファクターは1.4%減の79.4%になった。

なお、香港・マカオ・台湾の各リージョナル線については、総旅客数10.8%増、ASK10.7%増、RPK12.5%増、ロードファ

クター1.3%増の77.1%と、成長の勢いが伺える。

★ヴァージン航空、2-3月燃油付加運賃を据置き

ヴァージン アトランティック航空 (VIR) は、2-3月発券の燃油特別付加運賃 (燃油サーチャージ) について12-1月分をそのまま継続すると発表した。東京-ロンドン線は片道2万4000円、これに航空保険料440円が加わる。

★アエロフロート・ロシア、サーチャージ据置き

アエロフロート・ロシア航空は、2月1日~3月31日の期間の東京-モスクワ/サンクトペテルブルグ線の燃油サーチャージを片道1万8000円、東京-ヨーロツパ線 (直行便・接続便) の燃油サーチャージを片道1万9000円と、現行から改訂なしとした。

★FDA、小牧-新潟線に正式就航 小牧-青森/花巻線を1日2往復に増便

フジドリームエアラインズ (FDA) が発表した3月25日以降の路線便数計画によると、小牧-新潟線の就航を正式に決定。1日1往復便で運航する。運賃は大人普通運賃で2万4000円。最安値は「45割」の1万円。同社はさらに、小牧-青森、小牧-花巻線を、それぞれ1日2往復に増便した。

小牧-新潟線は、小牧を07時50分に出発し、新潟には08時50分に到着。一方、新潟発の便は20時00分に新潟空港を出発して、小牧には21時05分に到着するというダイヤ設定。

(小牧-新潟)

▼371便=小牧07時50分→新潟08時50分

▼376便=新潟20時00分→小牧21時05分

(小牧-青森)

▼363便=小牧10時55分→青森12時15分

▼367便=小牧18時15分→青森19時35分

▼364便=青森12時45分→小牧14時10分

▼368便=青森20時05分→小牧21時30分

(小牧-花巻)

▼351便=小牧07時30分→花巻08時45分

▼355便=小牧14時30分→花巻15時45分

▼352便=花巻09時15分→小牧10時30分

▼356便=花巻16時15分→小牧17時35分

【観光統計】

★11年の香港日本人客、2.5%減の128万3687人 夏以降に急回復、12月単月は7.1%増の12.9万人

香港政府観光局がまとめた2011年1-12月累計の日本人訪問者数は、前年比2.5%減の128万3687人だった。3月の震災後、香港への訪問者数も大きく落ち込んだが、夏以降でほぼ前年並みまで盛り返した。12月単月の日本人客は前年同月比7.1%増の12万9406人。2011年の月別推移は以下の通り。(カッコ内前年比)

▼1月=11万3373人 (1.3%減)

▼2月=9万9430人 (15.5%増)

▼3月=11万4104人 (14.4%減)

▼4月=8万5056人 (10.9%減)

- ▼5月=9万4151人(13.8%減)
- ▼6月=9万2834人(11.2%減)
- ▼7月=9万9405人(3.4%減)
- ▼8月=11万8521人(1.6%増)
- ▼9月=11万3229人(5.6%減)
- ▼10月=10万4495人(4.6%増)
- ▼11月=11万9683人(5.9%増)
- ▼12月=12万9406人(7.1%増)
- 1-12月累計=128万3687人(2.5%減)

【DESTINATION】

★今年のイタリア観光は温泉とウェディング重点
日本映画が相次いで公開、新規需要掘り起こしへ

イタリア政府観光局(ENIT)は今年、「テルメ(温泉)」と「ウェディング・ハネムーン」の2つを重点テーマにプロモーションを展開する。テルメはおもに業界向け、ウェディング・ハネムーンは消費者向けに展開し、イタリアへの商品開発や需要開拓につなげる。今年6月までにイタリアを舞台とした映画が相次いで公開されることに合わせる。

すでにプロモーション展開用の予算案を本局側に申請した。具体的な活動内容は予算案が認可され次第決定する。

日本で公開される映画は、古代ローマの浴場設計技師が現代日本の銭湯にタイムスリップする「テルマエ・ロマエ」(阿部寛主演)が4月28日から公開。また、主人公の新婚カップルが新婚旅行で出かけるローマを舞台にした「ホテルノヒカリ」(綾瀬はるか主演)が6月9日に公開される。

「テルメ」に関しては、イタリアでの温泉体験があまり日本で知られていないことから、日本と同様にイタリア各地にも温泉が多数あること、さらにテルメ体験ができるリゾート施設などを紹介していく。旅行会社向けのセミナーを開催し、既存ツアーへの組み込み方などを提案していく方針だ。

「ウェディング・ハネムーン」では、すでに一定の旅行需要はあるものの、改めて消費者に向けてハネムーンデスティネーションとしての魅力を訴求し、ツアーの販売促進につなげる。

ENITでは、これら2つのテーマ以外にもイタリアでのMICEや「小さな村」のプロモーションを図るほか、レオナルド・ダ・ヴィンチ展が開かれるトスカナ州、鉄人レースの開催で注目が高まるヴァッレ・ダオスタ州といった、地域の魅力も積極的に紹介していく。また、イタリアツアーを造成する旅行会社の新規開拓にも注力する方針。

シチリア島・カタニーヤが日本人誘致を強化

地域の魅力発信では、シチリア島のカタニーヤ市が日本人誘致に名乗りを挙げている。カタニーヤ商工会議所のロマーノ・カルロ理事(写真)は去る1月19日~21日の3日間で、日本企業との交流拡大を図るビジネスミッション「Sicily Meets Japan」を開催、農業分野や食品加工分野を中心に、観光分野でも企業間交流や観光客誘致に取り組む方針を示した。



カタニーヤ市とその周辺は、オリーブオイルやワン、パスタといったイタリア食材の加工業が盛んな地域。また、世界遺産の「ヴァル・ディ・ノートの後期バ

ロック様式の街」の一つに登録されており、美しい街並みには世界中から観光客が訪れる。

現在、日本からシチリア島を訪れるツアーの多くは、パレルモやカオルミーナといった都市を訪れるのがほとんどで、カタニーヤに滞在するツアーはあまり多くない。カタニーヤ商工会議所では、地元でのグルメ体験や食品加工工場見学などを提案し、日本人観光客の宿泊拡大につなげたい考えだ。

今回のミッション来日に合わせ、2月下旬に現地を視察するファムツアーの実施を決定。6社程度の旅行会社が参加を予定している。

【HOTEL】

★ANAクラウンプラザホテル長崎が営業開始
同ブランド国内13軒目、九州では2軒目

IHGANAホテルズグループジャパンは、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルの営業を開始した。ANAクラウンプラザホテルブランドにおいては、国内13軒目、九州2軒目となる。

同ホテルは地上7階、地下1階の規模で、客室数はシングル34室、ツイン159室、バリアフリーツイン1室、ダブル20室、スイート2室の合計216室になる。収容人数は398人としている。

また、406平方メートルの大宴会場「グラバーホール」のほか、中・小規模の宴会場を4室完備している。飲食施設は和食・中華料理の「潤慶」など4施設が出店、そのほか、各種ウェディング施設も完備されている。

■為替市況(24日)

	(円)
USD(米ドル).....	78.00
GBP(イギリスポンド).....	123.87
CAD(カナダドル).....	78.00
CHF(スイスフラン).....	83.97
SEK(スウェーデン・クローネ).....	11.81
EUR(ユーロ).....	101.75
DKK(デンマーク・クローネ).....	13.78
IDR(インドネシア・ルピア)(*).....	0.99
NOK(ノルウェー・クローネ).....	13.44
PKR(パキスタン・ルピー).....	1.01
PHP(フィリピン・ペソ).....	1.94
QAR(カタール・リアル).....	21.87
THB(タイ・バーツ).....	2.53
AED(UAE・ディルハム).....	21.68
AUD(オーストラリアドル).....	83.12
HKD(香港ドル).....	10.35
INR(インド・ルピー).....	1.71
SAR(サウジアラビア・リアル).....	21.37
CNY(中国元)(*).....	12.60
KWD(クウェート・ディナール).....	285.28
KRW(韓国ウォン)(*).....	7.03
SGD(シンガポール・ドル).....	61.58
NZD(ニュージーランド・ドル).....	64.54
ZAR(南アフリカ・ランド).....	11.19
CZK(チェコ・コルナ).....	4.07
MXN(メキシコ・ペソ).....	6.85
RUB(ロシア・ルーブル).....	2.75
HUF(ハンガリー・フォリント).....	0.35
PLN(ポーランド・ズロチ).....	24.66
TWA(台湾ドル).....	2.58
MYR(マレーシア・リンギット).....	24.92

※TWA、MYRは1月20日現在
東京外国為替相場/T.T.Selling(三菱東京UFJ銀行調べ)